

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(榛沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学
榛沢小	65	61
埼玉県	68	62
全国	67.2	62.5

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	榛沢小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	96.9	94.4	93.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	87.5	83.1	81.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	96.9	91.7	90.5
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	18.8	12.4	12.6
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	84.4	73.4	70.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	81.3	80.9	77.4
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	84.4	83.0	78.8
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	65.7	53.7	52.5
教科への関心	国語の勉強は好きだ	75	61.6	61.5
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	94.0	92.8
	算数の勉強は好きだ	81.2	61.2	61.4
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	94.1	93.3
	英語の勉強は好きだ	53.2	69.6	69.3
	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う	43.7	54.1	52.5
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	84.4	83.0	78.8
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	71.9	68.4	63.7
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	78.2	79.5	74.4
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	84.4	84.7	81.8
その他	自分には、よいところがあると思う	84.4	85.6	83.5
	将来の夢や目標をもっている	84.4	82.7	81.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	93.8	96.3	95.9
	今住んでいる地域の行事に参加している	68.8	56.8	57.8

【質問紙分析】

・学習習慣に関する項目では、「計画を立てて学習している」など、多くの項目で全国平均・県平均を上回った。昨年度より家庭学習の充実を図るために、職員で研修を行ったり、家庭への周知を行ったりしたことが要因であると考えられる。また、当該学年では4年生から「けてぶれ学習*」に取り組んでおり、主体的に学ぶ姿勢が身につけてきていることも考えられる。

*「けてぶれ学習」・・・計画・テスト・分析・練習の頭文字をとった学習法。子供自身が学習のゴールを決めて計画を立て、自分の力を確認・分析し、練習をするサイクルを繰り返していく。子供の学習にPDCAサイクルを当てはめたもの。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

「よかった点」

○1三(2)イの設問は100%の正答であった。送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことができています。

○2一の設問は90.6%の正答であった。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することが多くの児童ができていた。

「課題」

●1二の設問は18.8%の正答率であった。図表やグラフなどを用いて、自分の考え方を伝えるように書き表し方を工夫することができる児童が少ない。

●2四の設問は62.5%の正答率であった。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる児童が少ない。

【算数】

「よかった点」

○1(1)の設問は96.9%の正答であった。伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることが多くの児童ができています。

○1(2)の設問はアイウエ全ての項目で90.6%の正答であった。伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができています。

「課題」

●2(4)の設問は12.5%の正答率であった。高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができる児童が少ない。

●3(4)の設問は34.4%の正答率であった。(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる児童が少ない。

【国語】

- ・iPad を積極的に授業で活用しているが、長文をじっくり読んだり書いたりする経験が少なくなってしまうのではないか、という懸念が依然残る。授業では、物語文・意見文・説明文をしっかりと区別し言語事項や文章構造、要旨、要約、要点、筆者の主張等を確実におさえた学年の段階に応じた指導を確実に実施する。
- ・読書を全くしない児童への対策として、全校で年間数回、読書月間を設け本(活字)に触れる機会をつくとともに、学校図書の入替をすすめ、読書意欲の向上を図る。

【算数】

- ・昨年度からの課題として、国語科における読解力(問題文の読み取り・記述・情報の取捨選択等)の向上が必須である。授業の中で、自分の考え方や求め方を生み出す時間を多く取り入れ、なおかつアウトプットできる授業展開にする。友達の考えと自分の考えを比較すること、教えること、説明することは理解の定着や深化への近道になると考えられる。
- ・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる児童が少ないことから、筆算の仕方だけではなく、何を計算しているか理解させるため、授業の中で自分が行った計算を説明する活動を意図的に設けていく必要がある。